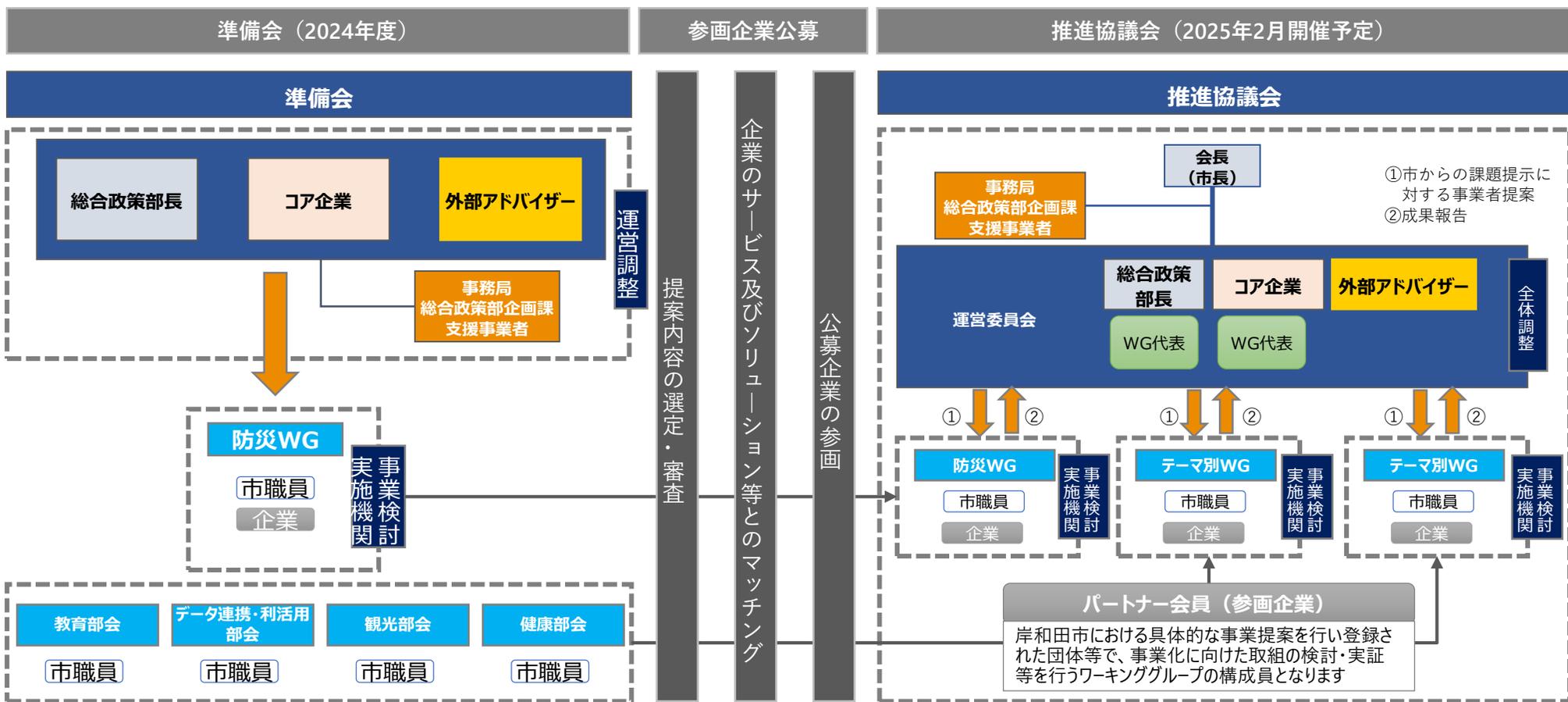


公募の付属資料

準備会及び部会から推進協議会への変遷について（協議会の構成イメージ）

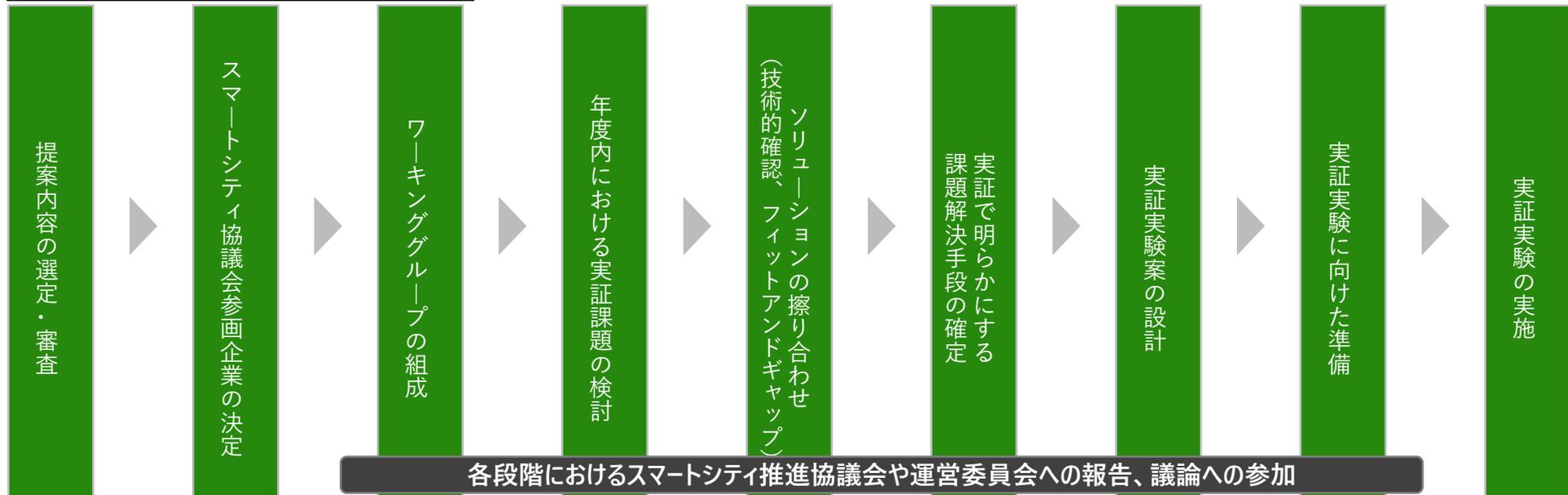
- ・本市における推進協議会は2024年度における準備会を拡大した形で構成され、実証検討実施機関としてワーキンググループを置きます。
- ・本市職員により構成される部会で議論した課題に対応したソリューションを提案いただき、選定された場合、ご提案いただいた企業及び本市職員から構成されるワーキンググループを組成します。また、ご提案頂いた企業にはワーキングを主導いただき実証実験等を実施していただきます。
- ・2025年度以降は、ワーキンググループの実証で得られた成果・知見を精査し、有用性を確認したうえで予算化をめざします。



参画企業選定後の流れ及び参画企業に求められる役割について

・本公募に選定されスマートシティ推進協議会のパートナー会員となられた場合、ワーキンググループにおける実証実験に向けた各種取組を主体的な立場で進めていただくとともに、推進協議会における定期的な議論にも参加いただきます。

【実証実験実施までの取組の流れ（想定）】



パートナー会員（参画企業）に求められる役割

- ワーキンググループの組成後、実証実験の実施に向けた各種取組を主導すること
- 市職員との協議を通して、市の現状等を把握するとともに、課題感や取組レベルの目線合わせを行うこと
- 課題解決のためのソリューションを示し、市職員との意見交換の中で実証実験で用いる手段の調整を行うこと
- ワーキンググループにおける意見及びアイデアを取り纏め、主体的な立場で実証実験案を設計すること
- ワーキンググループの取組について、岸和田市スマートシティ推進協議会運営委員会への定期的な報告を行うとともに、市のスマートシティの検討にも積極的に参画すること

パートナー会員（参画企業）に求められる視点

- 公募の対象課題を含む社会課題全般はスマートシティの観点がなくとも解決が望まれるものとの考えのもとで、スマートシティの考え方を取り入れることやデジタルを活用することでより効果的・効率的に課題を解決する方法を模索していく視点
- 課題解決にあたっては、協働・協創の考え方を前提として、ワーキンググループ構成員である市職員との綿密な意見交換及び情報交換を通して、岸和田市の実情に合った解決策（実証手段）を模索していく視点
- 参画しているワーキンググループだけでなく、市のスマートシティの取組全体に対しても積極的に関与・参画していく視点

公募の対象課題及び確認事項について

- ・本公募では、本市におけるスマートシティの取組を推進するために、本市職員による構成される部会で議論した課題を提示し、その解決につながるソリューションを提案いただきます。
- ・ソリューションを提案していただくにあたっては、本市におけるスマートシティを取り巻く現状、分野別課題等を踏まえ、課題解決及び市民生活の向上につながる基本的な考え方及び方向性等を示すために策定した「岸和田市スマートシティ構想」(https://www.city.kishiwada.osaka.jp/uploaded/life/219079_553452_misc.pdf)を併せて参照してください。
- ・本公募においては、本市職員により構成される部会で議論した課題及び「岸和田市スマートシティ構想」の内容を踏まえて、ソリューションを提案いただきます。

【公募の対象課題（部会で議論した課題）】

課題番号	内容
課題①	ライフステージ別の生活習慣に対する意識向上
課題②	データを活用した新たなサービスの創出による生活が豊かになる基盤の構築
課題③	尖ったブランディングを実施し、滞在型の観光地を実現
課題④	必要な人に必要な情報を届け、多様な学びにアクセスできる仕組みづくり
課題⑤	1つの機能で複数の課題を解決する仕組み

【課題①】ライフステージ別の生活習慣に対する意識向上

背景

- 岸和田市における健康面のLWC指標において主観・客観のギャップが見られます
- 岸和田市では、各世代で健康（特に生活習慣）に対する意識改革が求められています
- また、生活習慣の乱れが健康寿命だけでなく、学力・仕事等の様々な面に影響することが考えられます

解決したいと考える課題

- ライフステージ別の生活習慣に対する意識（のあり方）の低さやトピックとしての弱さ
 - 各世代（ライフステージ別）の健康意識改革が求められている
 - 子どもは小さなうちから、家庭における健康教育によって意識を変える必要がある
 - 高齢者は慣習を変えることが難しく、自信やプライドも高いことから改めて意識付けが必要

実現すべきと考える未来（短期、長期）

【短期】

- 健康情報を提供し訴求するためのターゲットの選定
 - 生活習慣改善、意識向上に向けたボトルネックへのアプローチ
- 家庭に対する健康教育の促進
 - 動画による講座やe-learning方式でインセンティブを付与しつつ実施（最小費用・最小負担で効果を発現させる工夫が必要）
- 健康に関するリスクの可視化
 - 健康に関するリスクを可視化、効果的な情報発信につながる方法の実証

【長期】

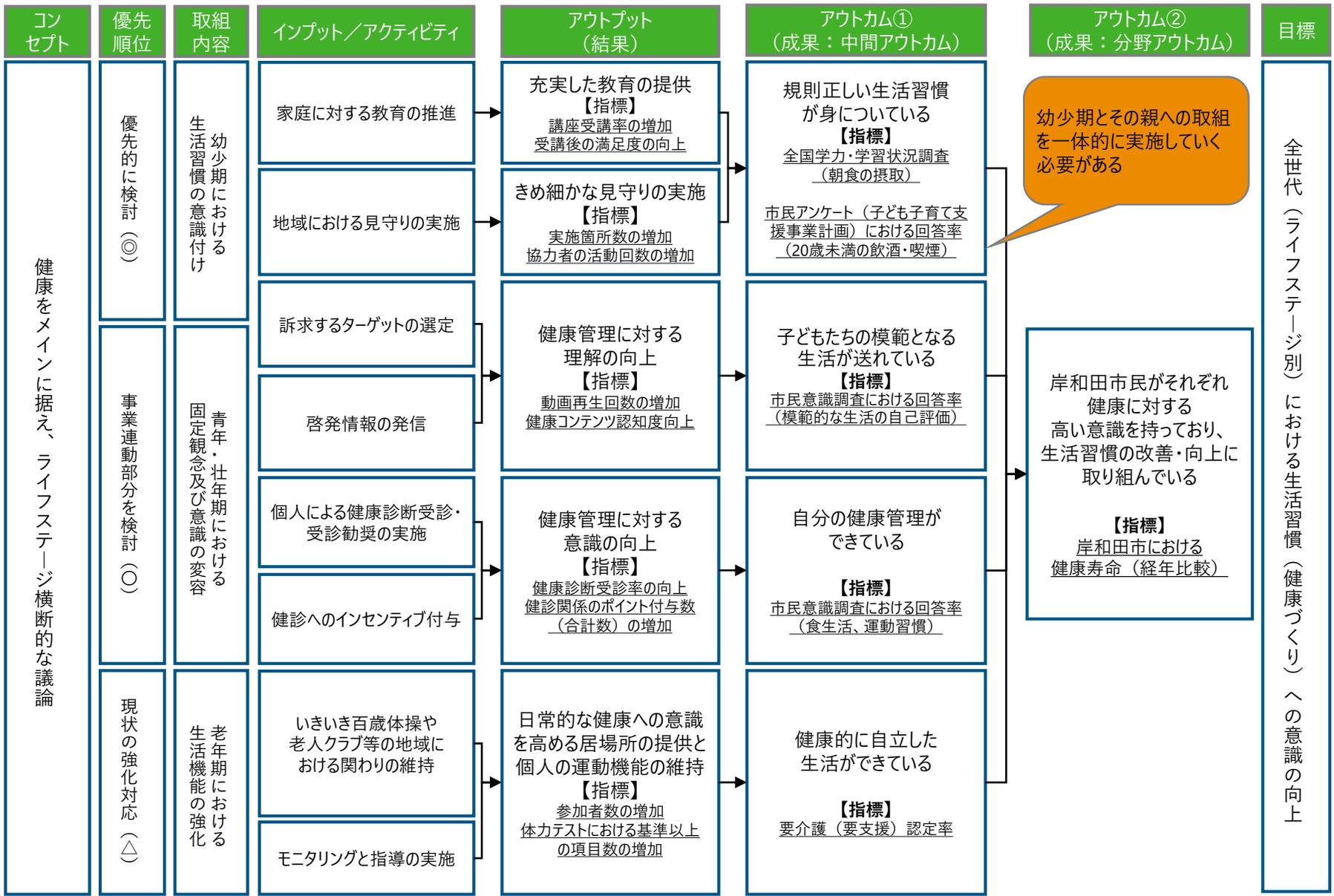
- 岸和田市民がそれぞれ健康に対する高い意識を持っており、生活習慣の改善・向上に取り組んでいる状態の実現

想定される解決策 想定サービスイメージ

- 市の保有データ等から健康情報の伝達や生活習慣の改善を訴求する仕組み（デジタルソリューション）
 - アプローチが必要な層の抽出と必要な健康情報の提供を一連で実施する仕組み
 - 幅広い層に健康情報を提供するための動画発信の仕組み（インセンティブを付与する仕組みづくり）
 - 市の保有するデータ等からリスク予測を行い潜在的にアプローチが必要な層を抽出（ターゲット選定）する仕組み

【課題①解決に向けたロジックモデル（内部検討結果）】

課題①解決に向けたロジックモデル（内部検討結果）



【課題②】データを活用した新たなサービスの創出による生活が豊かになる基盤の構築

背景

- 岸和田市では、データの分析・活用に対して成功体験を重ね、活用に係る意識を向上させていく必要があります
- 一元化すべきデータは精査のうえ収集・集約し、整理する必要があると考えています

解決したいと考える課題

- データ収集とデータの活用方法の検討
 - 活用を推進するにあたってはチャットボット機能等スモールスタートの取組から始めることが求められる
 - データ活用に伴い各課の事務負担が増加することへの配慮が必要
 - 連携先としてORDENを見据えながら進める
- 庁内で政策検討に活用できるデータ（EBPM用データ）の収集

実現すべきと考える未来（短期、長期）

【短期】

- 市民からどのような問い合わせが多いか、どのような情報が知りたいかを把握する（データ収集・分析）
- 想定QAを作成し、市民が知りたい情報をより簡単に知れるようにする（情報発信）
- データ連携基盤（ORDENを想定）を利用してデータ活用できている状態

【長期】

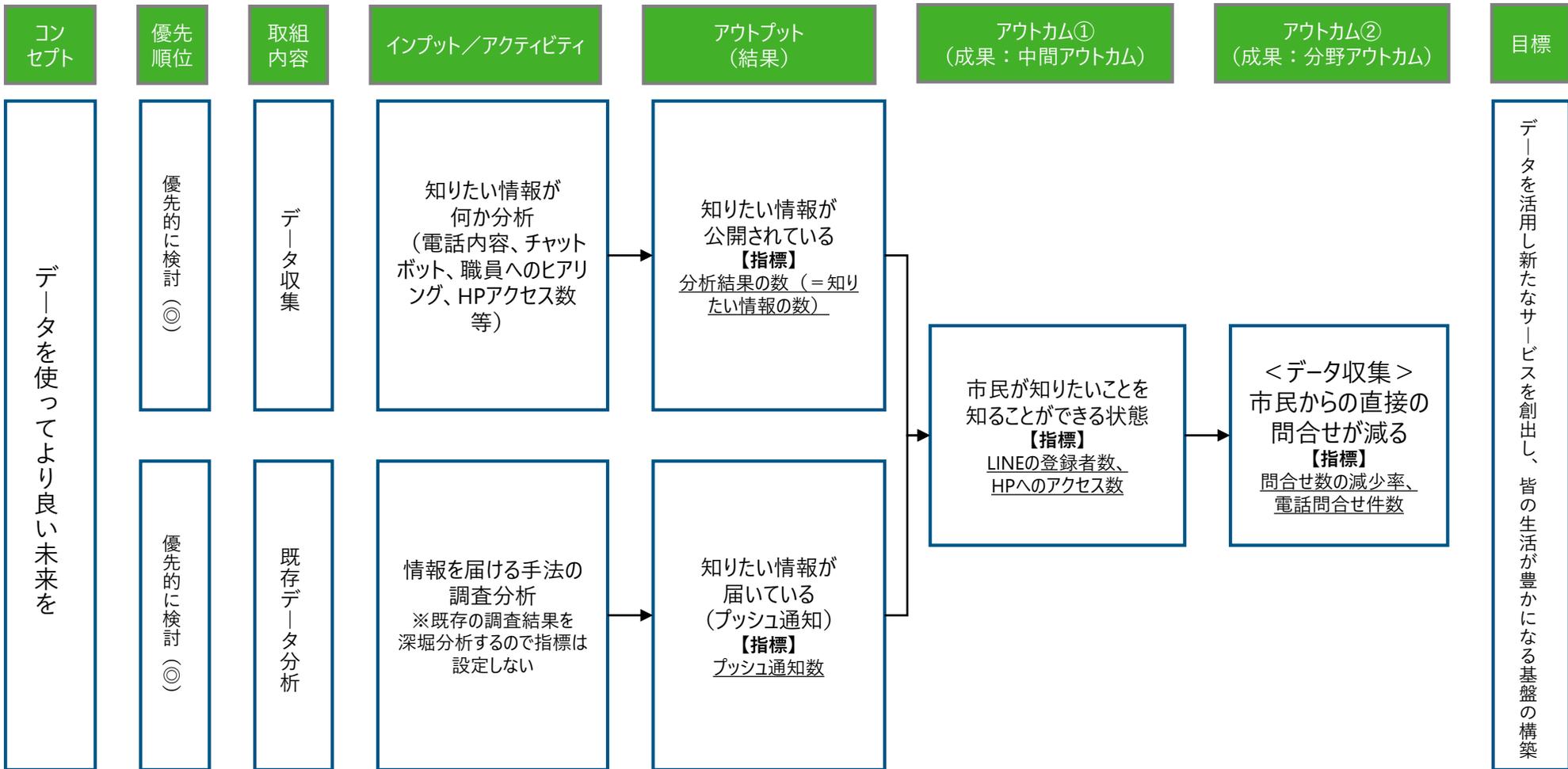
- 市民からの直接の問合せが減っている状態
- データを活用した新たなサービスが生まれている・利用されている状態

想定される解決策 想定サービスイメージ

- 市民の電話問合せの音声データをテキスト化・分析することにより、市民から問い合わせの多い内容や傾向などを把握し、それを踏まえた想定QAを作成し、市民が知りたい情報をより簡単に知ることができる状態を実現する仕組み（データ収集の仕組み）
 - 分析については、単に件数集計だけではなく傾向分析等も踏まえた市民の求める情報を把握できるサービスを求める

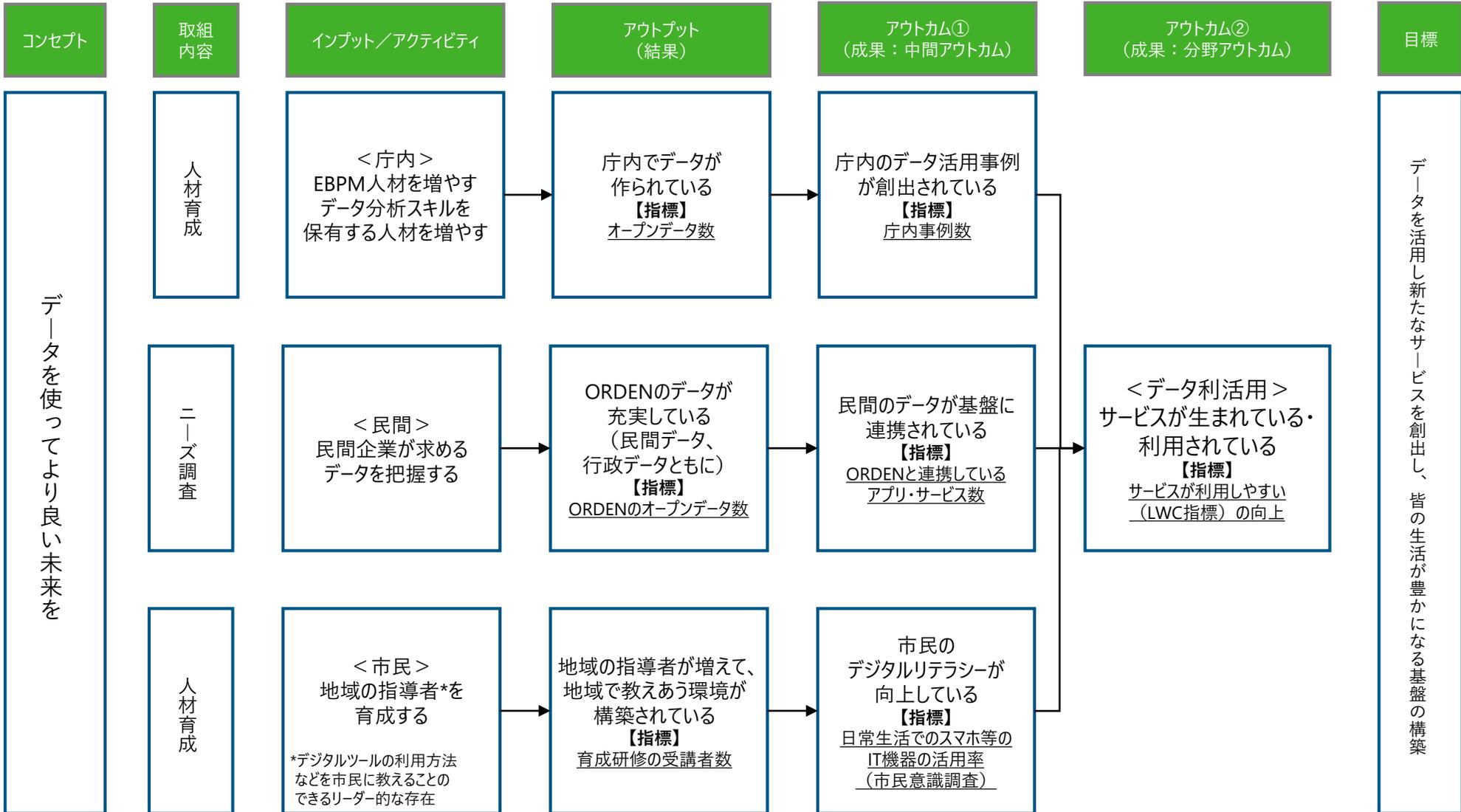
【課題②解決に向けたロジックモデル（内部検討結果）】

課題②解決に向けたロジックモデル（内部検討結果）（1/2）



【課題②解決に向けたロジックモデル（内部検討結果）】

課題②解決に向けたロジックモデル（内部検討結果）（2/2）



【課題③】 尖ったブランディングを実施し、滞在型の観光地を実現

背景

- 岸和田市内での移動性や回遊性が低いことに伴い、来訪者の滞在時間が短い傾向があります
- 岸和田市における観光資源データが庁内で集約されておらず所在が分散しているため、効果的な情報発信ができていません
- 発信するコンテンツを絞り込むことによる効果的なブランディングが求められています

解決したいと考える課題

- 情報を収集・集約と一元化
- 収集・集約した情報を踏まえた岸和田の魅力の効果的な周知
 - 岸和田のよいところや市民発のイベントや取組が伝わっていない（市民独自で実施している効果的な取組の把握も必要）
 - 効果的な発信方法や「何を推すか」を考えなくてはならない（ただHPで掲載するだけでなく、訴求力の高い発信方法が必要）
 - 上記に加えて移動性・回遊性等の不便な要素、不足している要素をデジタルでどう補うか検討が必要

実現すべきと考える未来（短期、長期）

【短期】

- 既存の市のツールを活用し、庁内・関係団体のイベントや取組等を登録してもらう岸和田市の観光年間カレンダーを作成する
- 観光年間カレンダーに市民発のイベントや取組に関する情報も登録してもらう仕組みづくり、加えて民間企業にも参画してもらい、イベントや取組を登録してもらう仕組みづくり
- これらの岸和田の魅力に関する情報を集約しアウトプットできるプラットフォームの構築

【長期】

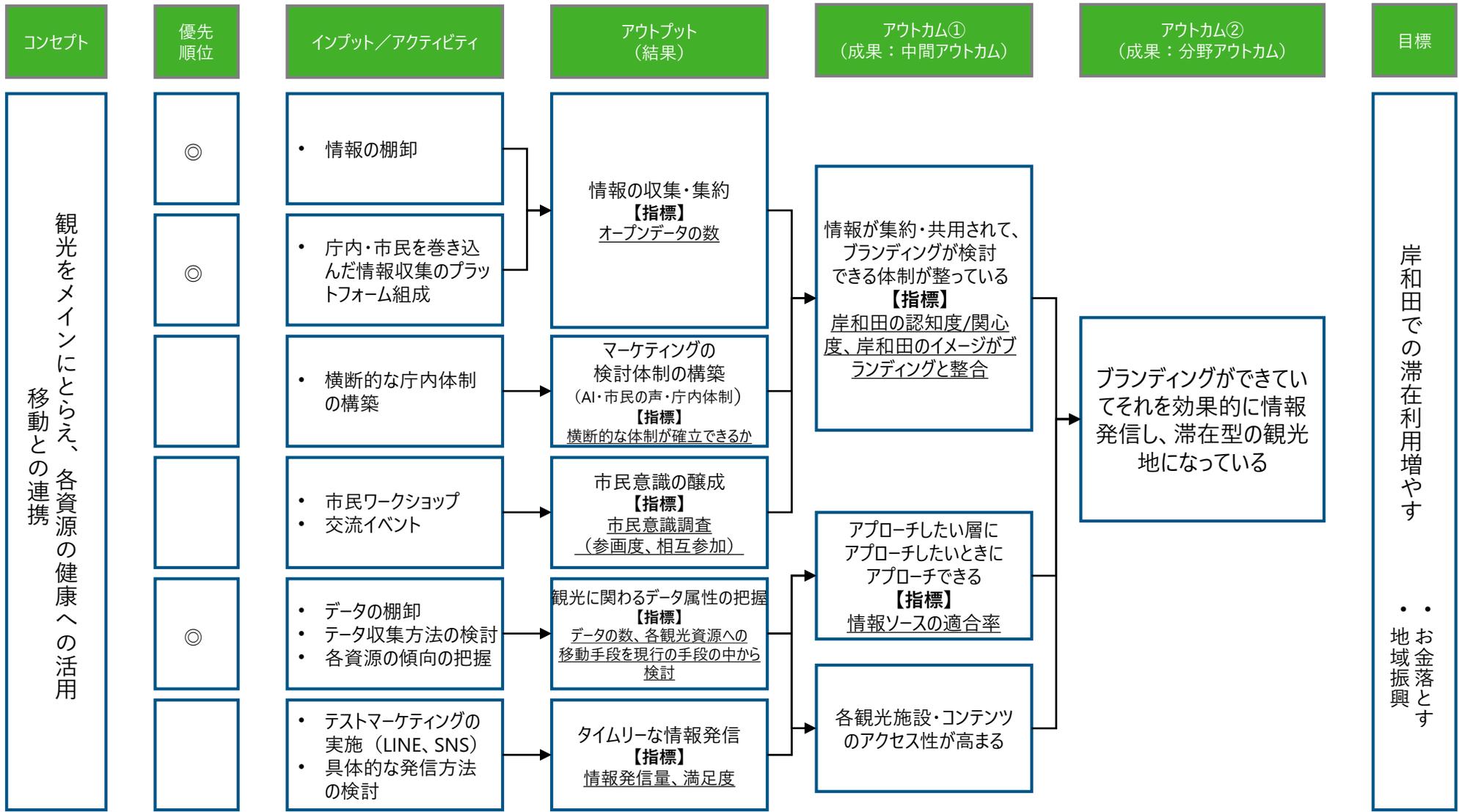
- 岸和田のイメージと整合したブランディングができていてそれを効果的に情報発信し、滞在型の観光地になっている状態
- 有効なデータが把握されており必要な情報及び実施体制が揃うことで戦略的にマーケティングができる状態

想定される解決策 想定サービスイメージ

- 庁内や関係機関のイベントや取組の登録機能を整備する、なお整備にあたっては以下の機能を保有させることが望ましい
 - 訪問レビューと投稿機能（インセンティブの付与が可能なシステムとする）
 - 予約機能
 - お土産購入やふるさと納税の実施が可能なEC機能
- 情報を収集・集約しながら、集めた情報の効果的な発信・周知が一体的に行える機能

【課題③解決に向けたロジックモデル（内部検討結果）】

課題③解決に向けたロジックモデル（内部検討結果）



【課題④】必要な人に必要な情報を届け、多様な学びにアクセスできる仕組みづくり

背景

- 岸和田市では豊富な地域資源、生涯学習講座、文化的活動の講師となり得る地域の人材等のあらゆる学びに関するコンテンツを有しているが、それらを必要とする市民等に適切な情報が届いていません

解決したいと考える課題

- 講座情報や子供の発達に関する情報や地域資源の情報等、必要な情報が必要な人に届いていない
 - 生涯学習講座、地域資源、地域の人材等のストック整理と情報集約が必要
 - これらは総じて個人の「困り事・悩み事」であることから、「困り事・悩み事」に対して適切な情報を届けることが必要
 - 検索が苦手な人やあいまいな検索方法でも情報に辿り着ける工夫が必要

実現すべきと考える未来 (短期、長期)

【短期】

- 生涯学習部門における必要な情報に必要な人がアクセスできる仕組みづくり
 - まずは「生涯学習」に対象を限定して仕組みづくりを模索する
 - 市のHPにおいて、市民が必要な情報に迅速にアクセスできないという課題が指摘されている

【長期】

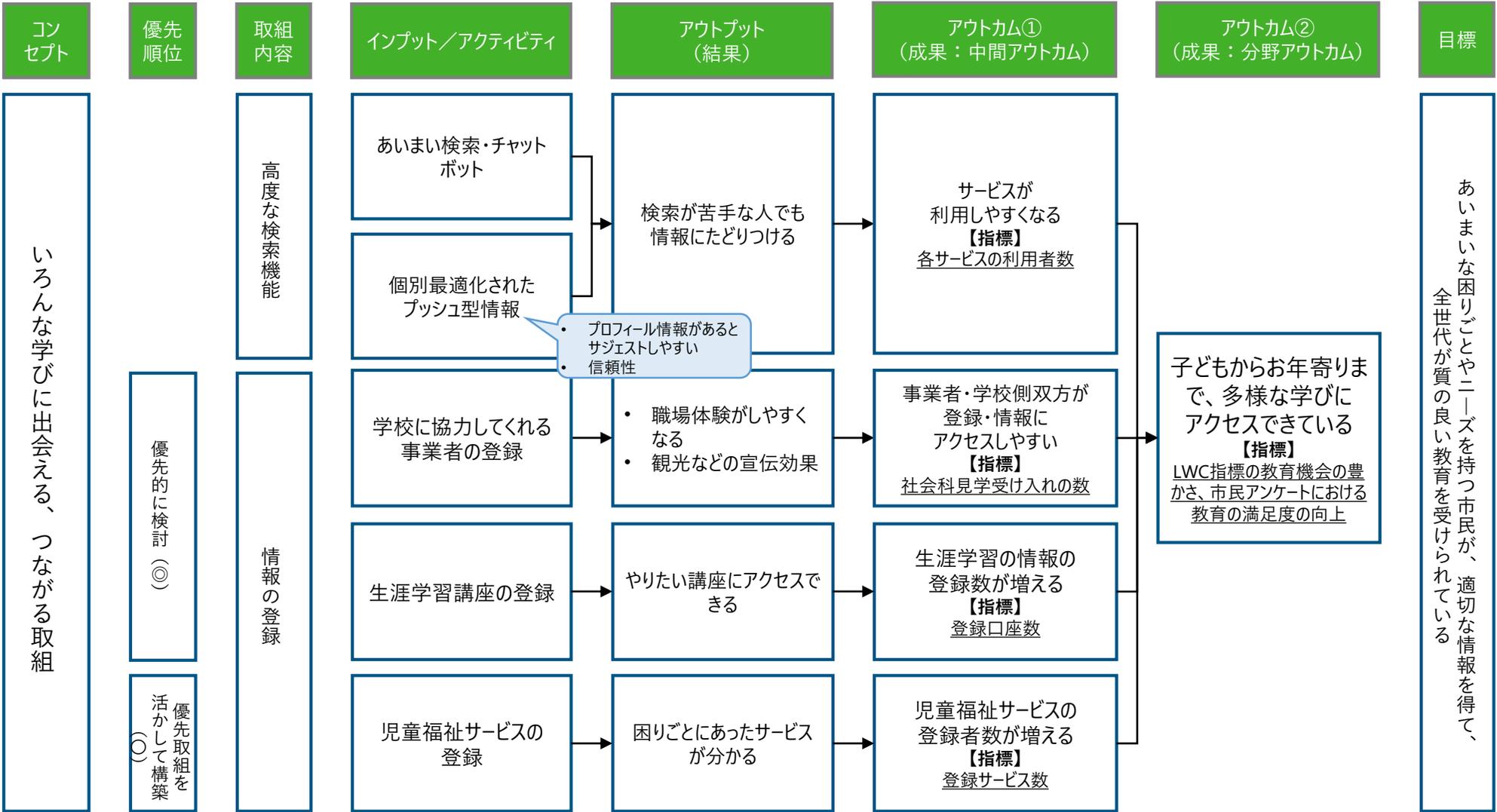
- 子どもからお年寄りまで、多様な学びにアクセスできている状態

想定される解決策 想定サービスイメージ

- 生涯学習講座に関する情報に迷わずアクセスできるような仕組みの構築（市民や教職員が利用できるポータルサイトの構築等が想定される）
- ポータルサイト等を通じて、個人の属性や登録情報から関連度の高い情報をサジェストしてくれるようなサービスの提供

【課題④解決に向けたロジックモデル（内部検討結果）】

課題④解決に向けたロジックモデル（内部検討結果）



【課題⑤】1つの機能で複数の課題を解決する仕組み

背景

- 岸和田市においては一部のオープンデータを除いて有益な情報が一元管理されていない状況です
- 行政の縦割りに基づくデータの所在やデジタルソリューションの提供に市民等のニーズが必ずしも合致していない状況です
- 市民や事業者が知りたい情報や必要な情報にアクセスできる環境が求められています

解決したいと考える課題

- 市内における有益な情報の発散、市民や事業者が求める情報に対するアクセス性
 - 庁内、事業者、個人等の様々なステークホルダーが有する有益なデータを集約する仕組みが必要
 - 同時に、収集したデータを蓄積し、発信・共有することができる（データベースのような）仕組みも必要
 - 関連情報のサジェスト等、情報を求める人にとって便利な仕組みも整備されていない
 - 各種データを用いてリスク分析を行ったり、EBPM等に資するデータとして収集する視点も不足している
 - 複数分野で使い回すことができる機能が必要（例：平常時は観光マップとして使える災害リスクマップ等）

実現すべきと考える未来（短期、長期）

【短期】

- 情報の収集が可能なデータベースの運用
 - 健康情報、生涯学習情報、観光地、問合せのFAQ等、市民が知りたい情報や市内外にPRしていききたい情報の受け皿の用意
- 様々なステークホルダー（市民、事業者、行政等）に情報を登録・発信してもらう仕組みづくり
 - 個人、事業者、市職員等がオープンデータだけではなく、岸和田の魅力向上や地域活性化に資する有益情報を登録
- 収集したデータの分析（データに基づくリスクの可視化等）
 - データ分析を実施するうえでは、市民に受け入れられ易いカテゴリーから取り組むことで横展開をめざす

【長期】

- 市内の様々な情報を集約する仕組みが整備されており、市民や事業者が必要とする情報にアクセスできる環境がある状態

想定される解決策 想定サービスイメージ

- 市民や事業者がそれぞれのニーズや用途に応じて「必要な情報」や「知りたい情報」にアクセスでき、同一または類似の機能を用いて様々な課題解決が行える仕組み（統合プラットフォーム等）
 - 健康情報、観光情報（お店の情報）、生涯学習情報、オープンデータ等の市内外の方にとって有益な岸和田市の情報を一元的に集約
 - 市民や事業者が有益な情報を登録可能なだけでなく、直感的な操作や曖昧な検索による情報やコンテンツを引き出すことができる
 - 集約された情報をデータ連携し、ニーズの高い組み合わせで発信したり、分析の精度を高めるために活用
 - 同一または類似機能を上手く使い複数課題を解決することができる、単一分野に対し想定される機能を他分野で異なる用途に使用できる
 - 個人の属性、登録情報及び検索ルート（嗜好・傾向）等から関連性の高い情報をサジェスト、収集したデータはEBPMの推進に活用